

キーワードは「ねがい」 あなたもぜひ京都へ



全国大会（京都）準備委員長
NPO 法人福祉広場 池添 素

一人のねがいをみんなのねがいに
45年前、障害児入所施設に働き始めた頃の私は「障害者施設で働きたい」というねがいが叶って張り切っていました。しかし「あれもしたい」「それはダメ」と、あっさり新人の提案が却下されへこんだことを思い出します。それから、一人でねがっても実現できない、いろんな人の大きなねがいに立ち向かわないと叶わないのだと学んだのもこの頃でした。そのねがいは全障研と出会うきっかけでした。ねがいがなければ全障研との出会いはなかったでしょう。期待通り、全障研

50回京都大会のキーワードは「ねがい」。わたしのねがい、あなたのねがい、みんなのねがいを集めてみたら、「あんなねがい」や「こんなねがい」がワンサカ出てきました。そこには、学校の先生にわかってほしい「学びへのねがい」や、いっぱい楽しいことをして生きる「暮らしへのねがい」や、どこで誰と暮らすかも大切と「人生そのものへのねがい」など、一人で考えているだけでは思いつかないねがいがいっぱい出てきました。まさに自分のねがいを「プラスワン」することにつながります。

「当たり前だと思っていたこと」が「もつとねがっていいのだ」との気づきは、「その人らしく」の「らしく」をバージョンアップさせてくれます。さまざまな年代のみなさんにインタビューして全体会の文化行事「Plus! action」に結実しました。自分のねがいや、子どものねがい、仲間のねがい、同僚のねがいをイメージしながら観てください。

働き始めた頃のもう一つのねがいは「彼らの気持ちを知りたい」でした。自傷、他害、飛び出し、無断外出などの行動でSOSを投げかけてくる子どもたち。「なぜ」「どうして」「どうすればよいのか」悩みました。「困った行動」を禁止するしか手立てがなかった情けない自分がそこにいました。今ならわかります。長年施設で暮らす彼らの気持ちの切羽詰まったアピールだったのです。彼らのねがいを理解することこそ、「困った行動」をなくすことにつながっていく近道でした。

あなたのねがもPlus!

ねがいを理解するために発達を学びたい期待に全障研は応えてくれました。「ねがいがわからず困っている人」の道しるべに『みんなのねがい』がありました。職場や地域での「困った」「どうしよう」にはサークルを立ち上げ、悩みをもち寄り話し合いました。夏には全障研全国大会が開催されて50回を重ねてきました。今年は22年ぶり、3回目の京都大会です。

あなたのねがいをもち寄り、子どもたちやお母さんたちのねがいに寄り添い、仲間のねがいに共感し、あなたのねがもPlus!される京都大会でお会いしましょう。

(いけぞえ もと)

京の町を巡る

【特集】

ねがいを ^{プラスワン} Plus+1 〜おこしやす京都へ

「京都といえなにを思い浮かべますか？」

今年の全国大会は、京都で開催されます。特集では、北から南まで、京都の面々が勢揃い。それぞれの思う京都の魅力、実践や歴史を語ってもらいます。歴史を学び、京を巡る一冊。さあ、この一冊をもって、京都へ行きましょう！『みんなのねがい』をPlus 1。そうすれば、大会がもっと楽しくなるはず。あなたも京都の魅力に触れてみませんか？



《全国障害者問題研究会 第50回全国大会》

8月6日（土）全体会 国立京都国際会館
8月7日（日）分科会・学習講座 龍谷大学深草キャンパス

記念講演 尾藤廣喜さん（弁護士）
「平和的生存権をかがけて～当事者から学んだ40年の歩み」
52の分科会、5つの学習講座で充実の学び！

